

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

- | | |
|--|--|
| <p>①熊野英生著『なぜ日本の会社は生産性が低いのか?』文藝春秋 (236頁, 新書判)</p> <p>日本企業の実績はもはや先進国最低レベルにまで落ち込んでいる、と鋭いエコノミストである著者は指摘する。個人に膨大な仕事の処理を求める組織体質、むやみに長い労働時間、定年延長時でも増えるワンオペ——こうした就業構造が、生産性を上げるために日々努力している人々の10年後、20年後へのノウハウの継承を難しくすると危惧する。また、個人が生産性の向上を最大化しても、必ずしも組織全体の集団的な生産性を最大化することにはならないと強調。組織の生産性拡大のためには、①効率化により新しい活動に投資するための余力をつくる②投資と試行錯誤を繰り返す③失敗を通じて経験値が高まり、成果を生み出す——という道筋を経ることが王道だという。</p> | <p>③アンヌ＝マリー・ギルマール著『社会保障制度の高齢化への挑戦』ミネルヴァ書房 (viii+314頁, A5判)</p> <p>わが国同様、人口の高齢化問題に直面していた欧州諸国では、約10年前から55歳を超えて働くことはまれだった。早期退職制度を大規模に実行した主要国では、こうした措置が引き起こす莫大なコストの問題に対峙し、同時に現役の就労者と年配の非就労者の間に生ずる年金制度のアンバランスにも気づいていた。本書では、欧州連合で実施されている多様な高齢化対策を分析。年配勤労者の早期退職傾向の反転に成功したオランダとフィンランドの2カ国について、年金を改革する以前に40歳以上の者を労働市場に再配置し、スキルと被雇用者能力を維持する積極的介入主義政策を実施することで、55-64歳の年齢層の就業率の引き上げに至った事例を提示している。</p> |
| <p>②下田直人著『人が集まる会社 人が逃げ出す会社』講談社 (174頁, 新書判)</p> <p>20年以上、社会保険労務士として数多くの企業の人事労務問題に取り組んできた著者が「人が集まる会社とはどんな会社なんだろう?」との自問に答える。「経験」とそこで得られる「感動」をキーワードに、業績や従業員数では表せないが、顧客も従業員も集まってくる「人の心を温める会社」を紹介する。こうした会社には「フェイス・トゥー・フェイスを重要視する」「多様性の受け入れに柔軟である」「個人を大切にすること」などの特徴がある。また、忘れてはならない点として、利益を最優先にしない、との社風がある。利益は追求するものの、もうかることが一番大切な視点だとは考えていない。「利益より大切なものがある」という価値観に引き寄せられる社員は少なくないようだ。</p> | <p>④小島慶子編『さよなら! ハラスメント』晶文社 (390頁, 四六判)</p> <p>編者が大学教授や小説家、弁護士など第一線で活躍している人々とハラスメントについて考えるヒントを探った対談集だ。最近は企業や官界、スポーツ業界などでも様々なハラスメント問題が噴出しているとの共通認識のもと、「なぜハラスメントが起きるのか」「ハラスメントのない社会にするために何が必要なのか」「自分にできることは何か」などを11人の識者にたずねた。これに対して、「みんなが当事者性をもつというのはすごく大事な一歩」(精神保健福祉士の齊藤章佳氏)、「本当は職場に限らず、『すべてのハラスメントは人権侵害であり、いけないこと』という刑事罰がつくような法律があるといいが、それは今後の議論」(ジャーナリストの白河桃子氏)などの意見が出た。</p> |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2019年2月-3月労働図書館受け入れ)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ⑤ビョートル・フェリクス・グジバラ著『がんばらない働き方』青春出版社(238頁, A5判) | ⑩新谷真人編『労働法 第2版』弘文堂(xiii+244頁, A5判) |
| ⑥大谷基道他編『現代日本の公務員人事』第一法規(viii+269頁, A5判) | ⑪安藤りか著『転職の意味の探求』北大路書房(viii+152頁, A5判) |
| ⑦清水克洋他編『団塊の世代の仕事とキャリア』中央大学出版部(vi+327頁, A5判) | ⑫佐藤かおり著『セクハラ・サバイバル』三一書房(216頁, 四六判) |
| ⑧岩田徹著『事業を起こす!人になるための本』生産性出版(243頁, 四六判) | ⑬文真實編著『コミュニティ・ユニオン』松籟社(293+46頁, A5判) |
| ⑨水町勇一郎他著『どうする?働き方改革法』日本法令(199頁, B5判) | ⑭鈴木則之著『アジア太平洋の労働運動』明石書店(284頁, 四六判) |

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書122,617冊、洋書31,228冊、和洋の製本雑誌26,328冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(264種)、洋雑誌(142種)、紀要(509種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

